

# 足利大学 後援会 会報

第64号

発行

足利市大前町268-1

足利大学後援会

## ご挨拶



足利大学後援会 会長

川崎 浩 司

足利大学後援会会員の皆様、平素より後援会活動へのご協力厚く御礼申し上げます。コロナの影響によりこの二年間は、卒業式、入学式、授業など変則的な開催のなか、後援会総会も書面会議となりました。会長を仰せつかりました川崎でございます。三回目の会長職となり後援会理事として十年目となります。これからも後援会活動を円滑迅速に運営しより良い後援会にしていきたいと思っております。

昨年から続くコロナにより、昨年度のわたらせ祭は中止となり、今年もこのコロナの状況では、わたらせ祭は開催できませんが心配でした。しかしながら、学生達はオンラインでの開催を成功させました。

さて新入学の学生達は、大学生活や環境には慣れてきましたでしょうか。私も本学の卒業生で、入学当時はまだ学園の周りは田園で、正門からの並木は現在のような大木ではなく、細かった事を思い出します。

今の日本は、東日本大震災以降、各地での気候がもたらす自然災害やコロナ問題で大変な時代を迎えています。そのような時代に、足利大学は工学部、看護学部の一学部体制となりました。本学の建学の精神である「和」の精神に基づいた「心あるエンジニア」「心ある看護者」の育成は、今の社会から経済から環境から真に求められています。後援会では将来のエンジニアや看護者となる学生達の学生生活をサポートするための協力

活動を行っています。例えば、今年度は新体育館の綴帳新調の協力や学生自治会活動・クラブ活動・各種資格試験・研究補助、スクールバスの寄贈等でございます。

是非とも保護者の皆様もコロナの影響により変則的なカリキュラムと変則的な授業体制でありますが、徹底したコロナ予防の対策をしておりますので、これからも学校生活を快適に過ごせますよう後援会と致しまして後援サポートをさせていただきます。

力に程宜しくお願い致します。

後援会総会決議事項の賛否の集計結果

	会員数	賛成票	みなし賛成数	反対票
機 械	207	16	191	0
電 気 電 子	122	13	109	0
システム情報	345	26	319	0
建 築・土 木	416	29	387	0
学 系	5	0	5	0
看 護 学 科	334	36	298	0
小 計	1429	120	1309	0
合 計	1429	1429		0

※令和3年8月9日で締め切りました。

**結 果** 令和3年度 足利大学後援会総会の提案議案は全会員により承認されました。

**見 意** ・承認しただけでない、などでなく自由記載で各会員が意見を述べる場を設ける、それが総会代替と感じる。

ご意見ありがとうございます。次年度の後援会総会がどのような形式で運営できるかまだわかりませんが、書面で執り行う場合には「自由記載」欄を設けます。

・事業報告書、事業計画(案)、予算書(案)しっかりしていると思います。

ありがとうございます。今後とも明確な資料の作成に努めてまいります。

# 足利大学後援会の皆様へ



学長

莊 司 和 男

後援会の皆様には、日頃より教育支援、就職支援に対する援助をはじめ、様々なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

なおコロナ禍の第五波が到来する中、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。その第五波は、日本全国に拡散し、ワクチン接種が進んでいるとはいえ先の見えにくい状況が続いています。皆様方におかれましても、多かれ少なかれコロナウイルス感染拡大により生活に影響を受けられていることと思

います。この場をお借りし心よりお見舞い申し上げます。さて、以上のようなコロナ禍の中、本学では学生・教職員の健康と安心・安全を守ると共に、キャンパスで充実した学生生活を過ごせる環境作りを目指し

ています。その一環として、教職

員全員、特に看護学部の先生方、そして校医、産業医の先生方にご協力頂き、国の進めるワ

クチンの「職域(大学拠点)接種」に登録し、七月末より学生・教職員の希望者を対象とした

ワクチン接種を実施いたしました。後期授業の始まる九月末には殆どの学生そして教職員が

ワクチン接種を終え、より安心してキャンパスライフを送れるようになっていることと思

います。なお、今回の「職域(大学拠点)接種」におきましては、足利市との連携により、地域の方の接

種も実施しており、地方の大学として地域貢献できたことをありがたく思います。

また、コロナ禍の中、例年開催されているイベントの多くが中

止となっています。その一つに海外への短期留学があります。本来であれば、本年度もアジア、アメリカ等の大学で学生たちは様々な体験をする予定でした。残念ながら渡航は中止となってしまいましたが、新たな試みとして、アメリカのイリノイ大学ス

プリングフィールド校(UIS)とZoomによるオンライン海外研修を実施いたしました。日程は八月三十日を開校日とし、九月三日までの五日間、本学の

学生五名、UISの学生九名が参加しての開催となりました。

初めての試みでしたが、両校の学生にとって思い出に残る有意義な研修会になったことと思

います。新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という予想も

なかった現状において、本学は既成概念にとらわれること無

く、新しい手法を積極的に取り入れ、教育・研究を継続して参

ります。また本学は、「和の精神」のもと、地域社会に必要とされる

「心あるエンジニア」そして「心

ある看護者」の育成に務めておりますが、コロナ禍の中で学生に充実したキャンパスライフを送っていただくためには、保護者

## コロナ禍における 本学の動向



副学長兼工学部長

末 武 義 崇

後援会の皆さまには、日頃より本学の教育・研究に関するご理解とご協力を賜り、心より御

礼を申し上げます。昨年の年初から我が国にも影響を及ぼし始めた新型コロナウイルスの

感染拡大は、今年に入つて更に深刻な影響をもたらしており

ます。皆さま方の中にも、自由な毎日を過ごされている方が多くおられることと思

います。お見舞いを申し上げます。本学も、昨年度は新型コロナウイルス対策に明け暮れた二年となり、その影響は今年度も教育

の皆様のご理解とご協力が不可欠となります。これまでにも増して、ご支援とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

ります。

今年度のスタートに当たっては、年初からの感染第三波がやや落ち着く傾向を示しつつあったことと、新型コロナウイルスに蓄積されてきたこともあり、遠隔授業と対面授業を組み合わせ、ハイブリッド型授業“を中心に授業を開始することとなりました。授業のクラスを二グループに分け、一方のグループには入構を認めて対面授業を実施し、もう一方のグループには遠隔で授業を行い、翌週はグループを入れ替えて対面と遠隔の授業を交互に実施していくという方法です。新たな授業形態の導入で、授業開始の時期を昨年のように遅らせることなく、新年度をスタートさせることができました。実験・実習や卒業論文・修士論文の指導など、対面での指導が必須のものについては一貫して対面で実施することとしました。結果的に、前期はクラスター感染を発生させることなく、授業日程を終えることができました。

七月に入り第五波の感染拡大が始まり、緊急事態宣言も適用地域が拡大されるなど大変厳しい状況になったことを受け、前期末に予定していた対面試験を中止して遠隔試験に切り替えるなどの措置を取りました。後期授業についても十月二十二日までは全面的に遠隔授業で実施することを決定しました。年度当初のハイブリッド型授業の導入で、次第に通常状態に近づきつつあると希望を抱いてきただけに、我々教職員も落胆しております。しかしながら、九月に入ってから感染の状況に収束の傾向も見られており、後期の後半には、少なくとも前期と同様の授業体制に戻すことができるものと期待しております。

七月下旬に大学拠点接種も開始することになりました。九月上旬までには、学生・教職員を中心に約二〇〇〇名の関係者に二回の接種を完了することができました。ワクチンの大学拠点接種に関しては、申込段階から始まり、医療関係者への協力要請や会場の準備、実際の接種業務の遂行、国への接種結果の報告等々、膨大な事務作業をこなさなければならぬのですが、本学の職員が一致団結して業務を完結させてくれました。事務方にはこの紙面を借りてお礼を申し上げたいと思います。

加えて、ささやかではありませんが学生活動も再開しております。一昨年は台風十九号、昨年は新型コロナウイルスの影響のため、二年連続で中止となっておりました本学学園祭「わたらせ祭」を、リモート開催ではありますが十月に開催いたしました。コロナ禍の混乱を極めた状況下にも拘らず、実行委員会のメンバーを中心に学生諸君が実現のために一生懸命努力してくれました。有難いことだと感謝しております。また、二十年近く姉妹校交流を続けてきたアメリカ合衆国のイリノイ州立大学スプリングフィールド校(UIS)との短期留学プログラムも、リモートで復活させることができました。本学からは五名、UISからは八名の学生

が参加してくれました。

まだまだ感染終息が見通せない不確定な状況が続いておりませんが、学生生活が少しでも改善に向かうよう、教職員一同丸となって努力を積み重ねて参ります。今後とも、後援会の皆さまのご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

## コロナ禍の中での 看護学部での取り組み



看護学部長

杉原 喜代美

昨年の会報から早いもので二年がたちますが、今だコロナの収束に至っていないのが残念です。看護学部の近況と取り組みをお伝えできたらと思います。

本学は、現在までに第四期の卒業生を輩出しており、令和三年二月に実施された看護師国家試験合格率は九五・五％です。入学式が中止となりましたので、なんとか代替となるセレモニーをと考え、今年四月五日「進級式」を行いました。一

で全国平均を上回りました。令和三年度を迎え、一年次生は保護者の皆様はお招きできませんでしたが、本城キャンパスで看護学部のみで入学式を行いました。二年次生は昨年

年遅れましたが、学長先生からも式辞をいただき二つの節目となりました。二年次生は、今年五月から領域別臨地実習に臨んでいます。四年次生は、就職活動、国家試験受験対策として四年間のまとめとなる統合実習に頑張っています。

看護学部の教育において、看護実践能力を育成するためには、臨地実習は重要な位置づけとなります。新型コロナウイルス感染症により、学生や教員の感染予防対策の徹底はもちろんです。実習施設側の対象者も含めた安全対策が、より一層求められるようになってきました。

一部の実習施設では、以前と同じような実習方法での学修が難しくなっています。このような状況下、教育の質の担保のために実習計画の調整や工夫をしながら、細心の注意を払って学生の教育にあたりてきました。より安全に臨地実習を実施するためには、一日も早いワクチン接種が必要でした。

新型コロナウイルスについて

は、日本国内では厚生労働省が令和三年二月十四日に承認したあと、二月十七日から医療従事者を対象にした先行接種が始まり、二月十六日厚生労働省健康局健康課長発「接種順位が上位に位置づけられる医療従事者等の範囲について」で、医学部生等の医療機関において実習を行う者については、実習先となる医療機関の判断によりワクチン接種が可能となりました。しかしこの時点では、看護学部学生のワクチン接種は現実的ではありませんでした。

四月からは各地で高齢者の接種が開始されたこともあり、医療系大学、専門学校ではワクチン接種の動きが進み、足利大学でも学生への接種実現に向けて各方面からの情報収集、調整を進めましたが、なかなか実現が難しく教員として焦燥感は否めませんでした。六月に入つて栃木県より新型コロナウイルスワクチン接種実施医療機関に対し、看護師等学校養成所所属の学生にかかわる予防接

種の先行接種について協力を依頼したとの通知があり、ちょうど実習病院のひとつから実習中および実習周辺の学生のワクチン接種を受け入れるとの回答を頂き、薄氷を踏む思いで臨地実習を続けていた学内は吉報に沸きました。急遽、病院側および学内の準備を進め、七月四日、二十五日にワクチン接種を実施しました。ワクチン接種については、六月に入つて大学でも職域接種の準備を同時進行で進め、七月下旬からは大学の職域接種（大学拠点接種）が開始になったこともあって学生のワクチン接種率はほぼ一〇〇%となったため、第五波の中でも実習方法を工夫しながら継続することができました。特に二年次生は、感染の影響で、昨年度はまったく臨地での実習ができていませんでしたが、やっとこの八月に初めて病院での臨地実習を行い、実践とおして看護を学ぶことができました。

非常に迷うこともありましたが、この難局に対して、社会情勢を冷静に見極め、大学のコロナ対策本部の方針をもとに佐藤臨地実習委員長を中心に看護学部教職員全員で乗り越えてきたことを申し添えます。この度、第五次保健師助産師看護師学校養成所指定規則をよろしくお願いいたします。

## 新しい授業方式の 試みと今後の課題



工学部 教務委員長  
小林 重昭

本年度より、工学部教務委員長を拝命いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。またハイブリット授業の三種類の、後援会の皆さまには、日頃よりご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、全面的な対面での授業が困難な中、今年度は、対面授業、学習管理システム(LM)リッド授業について紹介します。

ハイブリッド授業は、教室で学生が密にならないようクラスをA班とB班の二つに分け、二週ごとに対面と遠隔の授業を交互に受ける授業です。対面授業には、友達と教室で一緒に学んだり、受講していきながらわかるころをその場で解決できたりするなどの良さがありません。一方で、LMSを使うと、自宅にいながら一つのプラットフォーム上でオンライン授業の受講、課題の提出、さらに、教室では「少し質問しづらいな」と感じるような内容について個別に教員に質問することなどができます。またLMSを活用した遠隔授業には、公開期間内であれば授業を繰り返して復習できること、自分で主体的に学び取る力を伸ばす効果が期待できることなどのメリットもあると考えられます。これらの良さを併せ持つハイブリッド授業では、遠隔授業で疑問に思ったことを、次の週の対面授業で直接教員に会うて解決し、演習に取り組むなど反転授業としての効果が期待できます。

一方で、ワクチン接種が進む中で、「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」の授業のあり方を考える時期にも来ています。これまでに約一年半にわたって構築してきた遠隔授業コンテンツやLMSを、学生の主体性、理解度、満足度を高めるために今後どのように活用し、本学の「教育の質」を高めていくかが今後の課題です。工学部教務委員会で、ハイブリッド方式および遠隔方式の授業について総括しておくことが今後の授業のあり方を考えるために重要と考え、前期授業についてのアンケートを教員向け、学生向けに実施することになりました。また、その結果を踏まえた工学部FDシンポジウムの開催を計画しており、学生により良い学習環境を整えられるよう議論していきたく考えています。

今後とも、後援会の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## コロナ禍における 看護学部への授業



看護学部 教務委員長  
沼田 加代

沼田 加代

人類は感染症との戦いともいわれていますが、いまだ、新型コロナウイルスは、終息のめどがたっておりません。大学においてもキャンパスで十分に学ぶことができません。学生とご家族の皆様には、多大なるご負担をおかけしております。中でも、看護学部は医療従事者として、病院などにおける看護実践の学びを経て、国家試験の受験資格取得となります。さらに、本学の時間割は過密で、これまで、学生達は朝早くから夜遅くまで、図書館などで、勉学に励んでおりました。しかし、今は、新型コロナウイルス対策が必要となり、大学に登校できず、自宅にて、大学の遠隔授業を受けてもいます。また、感染状況によつては、大学の登校が可能になつても、登校時間や場所の制限が生じています。数々の制限を守りながら、これまでの実得られない今や、本学部ではシミュレーションラボという患者を想定した人形を用いて、看護実践を修得するなどの工夫もしています。さて、日本の超高齢化社会において、医療提供の場が病院にとどまらず在宅や施設などに変わっていく中、次年度入学生からは従来のカリキュラムを一部見直した新カリキュラムが、全国の看護系大学で開始されます。この新カリキュラムは、これからの看護の飛躍的な発展を目指した看護教育となつていきます。また、本学は、地域の保健医療人の育成と多様な場における保健・医療の提供ができる看護専門職の育成を掲げ、新カリキュラムにおいてもこの育成方針を継続する予定です。

このような過渡期の真最中に勉学に励んでいる学生達です。過酷ともいえる看護の現場に、学生は果敢にも、日々の授業や実習、そして、国家試験の勉強や就職活動を行っており、教員として学生に敬意を持つほどです。学生達が在学中に、専門職としての知識と技術、そして素養を身に付けて、今後、第2線で活躍できるよう、大学はなお一層、教授方法や内容を見直すことが課題となっています。そして、学生達が卒業後にも、看護専門職としての自分自身を高めていけるような大学の教育活動は不可欠といえ、教員も一丸となつて努力しております。

看護専門職が今までになく、社会から期待される中、学生が健康に活躍できるよう、保護者の皆様と後援会の皆様からの引き続きのご支援宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、後援会の皆様もお身体にご留意くださいますようお願いいたします。この曲難を乗り越えて参りたいと存しております。

# 学生指導・支援の取り組み



工学部 学生指導委員長  
櫻井 康 雄

後援会の皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

工学部学生指導委員会は、学生生活の面から本学が大切にしている「一人ひとりを大切に育てる」ことを実現するよう努力しております。二〇二〇年度に引き続き二〇二一年度もコロナ禍に見舞われております。このような中でできることは、出席履歴に基づいた就学支援と指導、電話による年二回の特別教育相談会、カウンセリング、クラブ活動再開のサポート、オンラインを主体とした大学祭の実施のサポート、特待生の選出です。これらを学生支援課および保健室と協力して実施しております。

学生は単位の取得状況によ

る学生にメールや電話で連絡を取り、事情を聞きアドバイスし、必要であれば保護者に相談します。本委員会では、前期に実施した対面授業とWeb授業をミックスした講義方式においても出欠管理と学生へのアドバイスが遅滞なくできるよう注意を払っております。

発熱の連絡があった学生への対応、検温所および工学部学生への職域接種の告知などです。コロナ禍に直面し学生は行動が制限され辛い状況にあります。学生指導員会は学生支援

課および保健室と連携しそのような学生の助けとなるよう活動を行っていきます。ご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願いたします。

# 学生指導・支援の取り組み



看護学部 学生指導委員長  
豊島 幸子

後援会の皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

全国的に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延防止対策を講じている中、流行した感染力の強いウイルス株（デルタ株）が猛威を振るった第五波での対応や感染症対策についてお伝えします。

学生指導委員会では、本大学の「新型コロナウイルス感染症に係わる本法人の対応方針」に基づき、学生の皆さんへ再度、予

防の徹底について検討しManaba等を活用し注意喚起に努めております。マスクの着用、手洗い（アルコール消毒含む）をはじめとする自己管理、教室使用後のアルコール消毒、密集、密接、密閉の三密の回避はもちろん、一つの密の回避が重要であることの啓発に取り組んでおります。また、学修支援システムMannaを通して視覚的な教育方法でCOVID-19の飛沫拡散などの動画配信により

感染予防対策の知識、認識を高めたりし、行動変容を促すために取り組んでおります。ワクチン接種は、感染を防止する効果も、また、たとえ感染したとしても重症化を防ぐ効果もあります。しかし、七月から実施されている予防接種でキャンパス全体をコロナ感染の広がりにくい状態に近づけることができたと考えています。

学生指導委員会では、この危機を共に乗り越え、安心・安全で充実した学生生活を送ることができるよう目標達成を目指します。

以下、具体的な取り組みについて紹介いたします。

看護学部では、アドバイザー教員が一人一人の学生生活をしっかりサポートしております。そして、各学年二名のクラス担任がクラス全体のサポートを行っております。昨年同様、年一回開催とする保護者説明会はWebによる実施となりました。また、年一回実施されている教育相談会についても、六月の二回目は

電話による相談となりました。

学生一人一人が充実した学生生活を送れるように、臨床心理士による学生相談や学生からの授業内容等に関する質問および勉強方法、さらには就職や将来の進路についての個人的な相談を受けるための「オフィスアワー制」も充実させております。また、経済面における奨学金制度、事故や災害時などのサポート等、様々なサポートを行っております。

コロナ禍で学生は必死に学業に取り組んでおります。こういう時こそ愛情ある教育が必要であると痛感する一人であります。愛情ある教育は、教育の根本であります。ただ何でも優しく対応することではありません。学生をよりよく養育することや、しっかりと教授することは、時には厳しさが求められます。将来、どのような職種に就いても通用する人になれるよう、学問と人間性の両輪で磨き続ける人でありたいと願います。本学は「国立大学法人上越教育大学大学院」と協定を結んで

おり、大学院進学と就職先選定へ向けて取り組む学生への支援に委員会から発信できることを継続し、充実した学生生活を

づくりにより学生と共に努力し活動してまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 長引くコロナ禍における就職支援



就職指導委員長

横山 和哉

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関する様々なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。昨年度の内定率は、工学部九四七％（就職者数二六〇名／就職希望者二六九名）、大学院修士課程六三六％（七名／十二名）、看護学部二〇〇％（八三名／八三名）となりました。コロナ禍により、思うように就職活動が進まない中、最終的には多くの学生が内定を得ることができました。これも後援会の皆様のご支援あつてのものと、重ねて感謝申

申し上げます。

昨年度はコロナ禍にありながら、当初心配した求人的大幅な減少はなく、工学部二二八社、五、五三三人、大学院九二九社、七八二人、看護二八二社、九三三人の求人をお願いいたしました。一方で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が取られたため、会社説明会や就職試験がWEB対応になるなど、これまでの就職活動から一変してしまいました。さらに、大学も入構規制で登校できない期間もあり、学生には大きな不安があつたものと

思います。このような状況下で、大学では就活WEB講座を企画し、企業の探し方や視野の広げ方などの就活の動きを解説する講座や、面接で学生が気になるポイントを解説する講座などを開催しました。また、例年秋に開催しております就職情報交換会は、WEB会議ツールZoomを使って実施いたしました。企業様も教員も初めての試みでしたが、大きなトラブルなく、東京方面二四二社、

足利方面二二社と情報交換を行うことができました。コロナ禍におきましても、企業様とつながりを大切にする、ことのできたと思います。さらに、毎年三月に開催されております学内の企業セミナーは、(株)デイスコ社のキャリアタスクCMSというシステムを導入し、三月九日～十一日の三日間、WEBで開催いたしました。一日七社×六ルームを設定し、学生一人当たり最大で二十一社の説明を受けることができ、従来の対面式よりも多くの企業様と面談することができました。また、実際の就職活

動もWEBで実施されることが多く、その予行練習にもなったと考えます。看護学部におきましては、コロナ禍ながら例年通りの就職指導を行っており、例えば二月末に「実習病院就職説明会」を開催し、七病院のご参加をいただき、Zoomを用いてリアルタイム又は録画にて実施されました。学生のアンケートは好評で、学生の就職先の選択に有意義なものとなりました。

本年は一～二月に第三波、五月～六月に第四波、八～九月に第五波と、学生の就職活動をコロナ禍が直撃しました。このような状況下でも、工学部一〇六八社三、八四〇人、大学院七二四社一、三六三人、看護学部二五六社六、〇三八人（九月二十一現在）の求人をお願いしております。厳しい状況下ではありますが、学生の希望が叶うよう、本人、教職員、後援会の皆様により一層連携できればと思います。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 大学への寄贈



令和3年3月 スクールバス



令和3年8月 新体育館（AUGアリーナ）緞帳  
新体育館の竣工式は11月に予定されています。



## 後援会事務局よりお詫び

会員様よりご指摘を頂き確認いたしましたところ、令和2年6月30日付け送付いたしました総会資料-6「令和2年度足利大学後援会予算書（案）」に誤りがございましたので、次のとおり訂正させていただきます。

- 誤：6積立金：本年度予算額(A)6,000,000、前年度予算額(B)9,000,000、増減(A)-(B)△3,000,000
- 正：6積立金：本年度予算額(A)9,000,000、前年度予算額(B)9,000,000、増減(A)-(B)0
- 誤：7予備費：本年度予算額(A)5,051,895、前年度予算額(B)338,473、増減(A)-(B)4,713,422
- 正：7予備費：本年度予算額(A)2,051,895、前年度予算額(B)338,473、増減(A)-(B)1,713,422

ご迷惑ご心配をおかけしましたこと、深くお詫びいたします。

## 事務局 便り

本学では本城キャンパスにおいて、コロナワクチン接種を希望する足利大学・足利短期大学の学生、教職員、その他足利市教職員に対し、新型コロナウイルスワクチン接種を実施しました。七月から九月の八週間で、足利市内の医師の方々のご協力を受け法人全教職員一丸となり二〇〇〇人弱の方へ二度の接種を完遂させることができました。

「わたらせ祭」に関しては、令和元年度第五十一回は開催直前に台風十九号により止む無く中止、令和二年度はコロナ禍により大学への入構も授業でさえ限られたもののしか対面では行えない状況であったため委員会活動もできないままでの中止となっております。

今年度は前述のとおりコロナワクチン接種希望者に接種を済ませ、ウィズコロナの名のもと新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの対面・オンラインによるハイブリットわたらせ祭開催を視野に入れ準備を開始してまいりましたが第五波の大波が到来し、八月の段階でオンラインのみでの開催を決定せざるを得なくなりました。

しかしながら、オンライン開催とはいえ三年ぶりに「わたらせ祭」を開催することができ、不慣れた学生スタッフたちではありましたが、お笑いライブ、トークショーを始め各種ゲームなどをまじえ大変充実した「わたらせ祭」を成功させております。大学構内で楽しむ姿を見ることができた「わたらせ祭」は来年に期待したいと思えます。後援会の皆様にもご協力をお願いします。

授業においては、前期には対面・オンラインのハイブリット型で実施できたものの、後期スタートの段階ではオンラインでの実施へとやや後退してしまいました。しかし、第五波も落ち着きをみせていることもあり、十月下旬からはハイブリットに戻りました。来年度には通常授業（対面授業）に戻せることを願っております。

最後に、後援会における理事・会員の皆様からのご意見ご要望について、事務局としても真摯に受け止め、学生へのサポート、満足度の改善等について最善の方策を探りながら進めていきたいと考えております。今後後援会会員の皆様のご協力をお願いいたします。